教えてください、あなたのことを。③

東京都中野区　羽賀育子 さん （1997 年入会）

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 昭和 18 年、東京都中野区に生まれましたが、すぐに栃木県の山奥に疎開し、シベリアに拘留されていた父が帰国するまでの６年間を栃木で過ごしました。父と中野に戻り成長、結婚。相手が国立公園のレンジャーでしたので、その後は全国あちこちと転勤しました。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは、いつ頃で、どんないきさつからですか？

A 二人の子どもを育てる中で、安心して食べられる野菜や肉、牛乳を求めて産直活動を始めました。「食物の安全は環境問題抜きに求められない」と考え、ごみ問題、身近な容器包装材、リターナブルびん・ペットボトル問題などに取り組むようになりました。

Q 「ごみ・環境ビジョン 21」に入会してくださったきっかけを教えてください。

A 多摩地域が日の出町の処分場問題で揺れていた 1990 年代は、23 区でもそれまで各区に任されていたリサイクルに東京都が参入してきたり、小型ペットボトルが解禁されたり、お隣の杉並区では不燃ごみを圧縮する中継施設周辺での健康被害が相次いだり…とごみ問題は多様化しました。

私も、これまでの焼却・埋め立てだけの処理方法ではごみ問題は解決しないと思い、デポジット制度の実現を目指して奔走していました。そんな中でのごみ・環境ビジョン 21 の誕生だったので、大いに期待し、ごみかんの前身の「市民環境情報センター準備室」から参加しました。

Q ごみ問題に関わること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 30 年ほど前、「自分で育てた大根でタクアンを漬けたい！」と何となく思っていたところ、知り合いから山梨県猿橋の百蔵山の麓にある畑と小さな家を譲り受けることができました。当時、夫は単親赴任だったので、小学校高学年だった娘と二人で、土日には猿橋へ通いました。枝が絡まり合って伐っても倒れない木や、頑強なススキの根を掘り起こして開墾し、畑を作りました。若かったとは言え、よくやったなーと思いますね。

今は退職した夫の車で、段ボールコンポストで作った生ごみ堆肥などを積んで、毎週末に通っています。ちょっと怠けると、畑はたちまち荒れてしまうので大変ですが、富士山を眺めながらの畑仕事で汗を流すのが、私の何よりのリフレッシュ法です。それ以外の平日はあいかわらず毎日、会議や打ち合わせで飛び回っています。今はごみ＋脱原発で、ますます忙しいです。（注：羽賀さんは、EPR とデポジット制度の実現をめざす全国ネットワーク、東京 23 区とことん討論会、容器包装の 3R を進める全国ネットワーク、レジ袋減量ネットワークなどで、多くの役職を務めています）

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A ごみかんは、タイムリーな話題を伝え、解説する素晴らしい運動体です。いつまでも活動を続けてください。